雑説

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

世有伯楽、然後有千里馬。千里馬常有、而伯楽不常有。故雖有名
馬、祇辱①於奴隷人之手、駢死於槽
櫪之間、不以千里称也。
馬之千里者、一食或尽粟一石。食馬者、不知其能千里而食也。
是馬也、雖有千里之能、食不飽、力不足、才美不外見。且欲与常馬
等不可得。安求其能千里也。
策之不以其道。食之不能尽其材。鳴之不能通其意。執策而臨之曰、「天下無馬。」
②鳴呼、其真無馬邪、其真不知馬也。

問一　二重傍線部ア～エの読みを現代仮名遣いを用いて答えなさい（送り仮名は含めない）。

問二　傍線部①を現代仮名遣いを用いて全て平仮名で書き下し文にしなさい。

問三　点線部A・Bの本文中での意味をそれぞれ答えなさい。

問四　空欄にあてはまる語を本文中から探して答えなさい。

問五　傍線部②の疑問に対して、筆者はどう思っているか。三十字以内で説明しなさい。

問六　本文の筆者が「伯楽」「千里馬」「奴隷人」「常馬」という例えを使って主張していることは何か。適切なものを次の中から選びなさい。

ア　優れた人材として識別されることを期待するよりも、積極的に自分の才能を売り込み、活躍の場を得るべきである。

イ　優れた人材を識別できない人のもとでは、十分に能力を発揮させることができないので、早々に立ち去るべきである。

ウ　優れた人材はそうめったにいるものではないので、それを識別し、採用するための鑑識眼を養わなければならない。

エ　優れた人材がいても、それを識別し、採用して相当の待遇をしなければ、その能力を発揮させることができない。

学年	
組	
番号	
氏名	
得点	

問一	問二	問三	問四	問五		問六
ア		A				
イ		B				
ウ						
エ						

雑説

〔出題の意図と留意点〕　漢字の読み・語句の意味・文法事項を踏まえた書き下しを出題するとともに、内容読解として、千里馬と伯楽との関係の理解を中心とした出題をした。

☆解答例と配点

問一　**ア**　しか　**イ**　いえど　**ウ**　あた　**エ**　ああ　〈３点×４〉

問二　どれいじんのてにはずかしめられ　〈６点〉

問三　Ａ　たたえられ　Ｂ　十分である　〈５点×２〉

問四　千里　〈６点〉

問五　千里の馬はいるのだが、それを見分ける伯楽がいないのである。　〈８点〉

問六　**エ**　〈８点〉

計50点